

CSJ Annual Report
2024

日本化学会アニュアルレポート

目次

Top Message … 01

日本化学会中長期基本戦略（2020年～2025年）… 02

2023年度活動pick up・2024年度活動方針… 03

春季年会・CSJ化学フェスタ… 04

講演会・講習会・実験教室の開催… 06

化学を広める・未来の化学者を育てる… 08

キャリア支援… 10

英文論文誌… 12

出版… 15

社会に向けた様々な取り組み… 16

グローバリゼーション… 18

表彰事業… 19

企業・団体からのご支援… 20

化学会概要… 21

会計報告… 23

寄付のお願い… 24

ノーベル賞受賞会員

日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。



Top Message

—世界の化学会を目指して



次世代を担うリーダー型若手研究者を育成しよう

今年は辰年である。中国では、古くから辰年は荒れる年といわれているが、日本でも元旦に能登半島で大きな地震が発生した。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、近年、我が国は元気がなくなったと言われて久しい。この30年間、平均賃金の横ばい状態が続いている。欧米諸国はもとより周辺諸国にも後塵を拝する状況である。また、サイエンス面でも我が国の国際レベルの低下が続いている現状を踏まえると、元気が出ないのも当然であろう。天然資源や食料に恵まれない我が国では人的資源の活用が極めて肝要で、国民一人当たりの知的レベルを高めるとともに個々の生産性を上げる努力をしないと世界で生き残ることは難しい。イノベイティブな物を生み出す研究開発において、我が国基礎、応用研究における国際競争力を磨くため、日本化学会はアカデミア、産業界におけるイノベーションや産業変革を先導できる人材、特に次世代を担う若手人材の育成、輩出の場を提供する必要がある。手をこまねいている時間はない。有効な対策の一例として、2010年から有機化学の分野で取り組んでいる「大津会議の試み」を紹介したい。

約25年前、今後の日本に必要なエリート育成を目指した「リーダー型若手研究者を育成する若手道場」の設立を提案したことがある。従来、将来有望な若手研究者の出現は自然の成り行きにまかせていたが、優

れた若手研究者を積極的に育成していく必要に迫られたからである。しかしながら、その当時、この手の取り組みは皆無であったということもあり、その実現は10年以上も見送られてきたものの、2010年にやっと「大津会議」という若手育成の場が誕生した。金の卵と言うべき志願者は、全国の有機化学分野の学振特別研究員の中から毎年16名が選抜されている。すでに第1～14期生が約230名に達しており、そのうちの7割近くが助教、講師や准教授として有機化学界で活躍し、今では日本の有機化学界の一大勢力になっている。今後は日本化学会として、このような活動を有機化学のみならず他の科学分野、そして女性研究者の育成へと広げることにより、日本化学会を通して日本の产学界を活性化する起爆剤にしたいと考えている。

また、日本化学会は2028年には設立150周年の節目を迎えることになる。我が国の化学者や化学技術者の日頃の活動を通して、広く一般市民や海外の方に、化学分野の社会における重要性や化学に対する正しい認識を持ってもらうための重要な機会と捉えて、この150周年記念事業を計画し、産学官からの支援をいただきながら強力に推進したいと考えている。

公益社団法人日本化学会 会長
京都大学大学院薬学研究科

丸岡 伸二

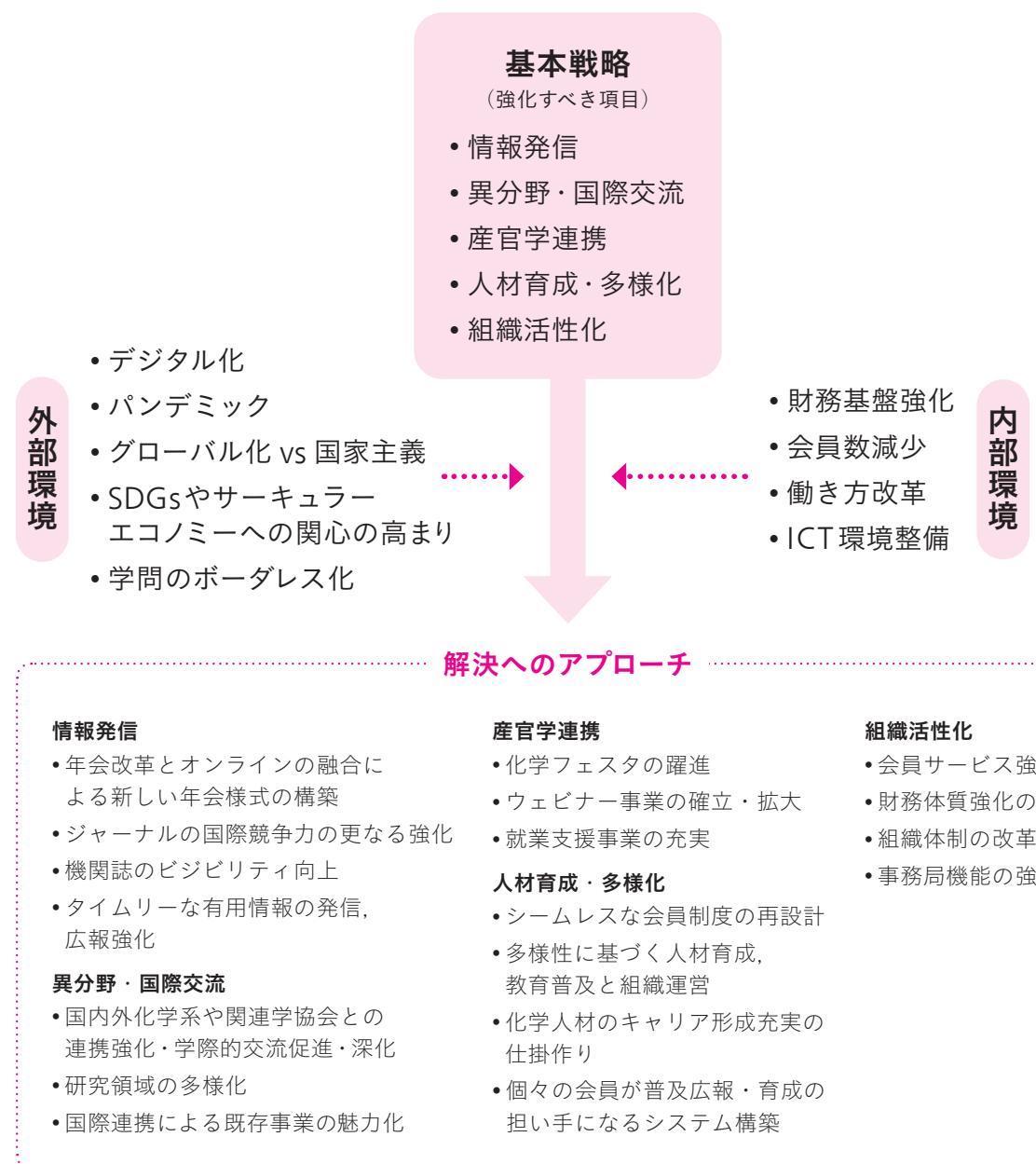
日本化学会中長期基本戦略 (2020～2025年)

基本理念

日本化学会は、産官学の化学に関わる会員により構成され、世界を先導する研究および技術開発による基礎科学の発展ならびに社会実装を通して、持続可能な社会の構築に貢献します。

基本理念から導かれる 基本戦略

基礎科学の発展／社会実装の実現



2023 年度活動 pick up· 2024 年度活動方針

2023年度活動 pick up

2023 年度は 4 年ぶりに春季年会を対面開催することができました。また、化学系企業の CTO が一堂に会する CTO サミットでは、『企業経営とカーボンニュートラルの本音を語る』と題してのパネルディスカッションを実施しました。第 2 弾のテーマは「サーキュラーエコノミー」です。こちらもご期待ください。



CTO サミット



第 103 春季年会

2024 年度活動方針

中長期基本戦略 強化すべき項目	解決へのアプローチ	2024 年活動方針
情報発信	<ul style="list-style-type: none">年会改革とオンラインの融合による新しい年会様式の構築ジャーナルの国際競争力のさらなる強化機関誌のビジビリティ向上タイムリーな有用情報の発信、広報強化	<p>104 年会の着実な実行と 105 年会の準備、中長期的視点での年会開催の仕組みづくり</p> <p>OUP との連携による海外マーケティング強化と科研費を活用した国際競争力強化の推進(特に海外からの高品質論文の掲載数増加、IF 向上等)</p> <p>機関誌プロモーションの強化と多角化によるビジビリティの向上、購読者の獲得、情報発信強化と会員の利便性向上のための化教誌の出版形態の検討</p> <p>会員サービス充実化を志向した情報発信のさらなる強化(ウェブサイト、配信メール、SNS、図書検索システム等)</p> <p>広報強化による日本化学会の活動周知の徹底での化学の普及・啓発(日/英アニュアルレポート、グッズ配布、化学遺産等)</p>
異分野・国際交流	<ul style="list-style-type: none">国内外化学系や関連学協会との連携強化学際的交流促進・深化研究領域の多様化国際連携による既存事業の魅力化	<p>国内・海外化学系学協会との連携強化(国内学協会、英、米、中、台、イスラエル等)</p> <p>Pacificchem2025 開催に向けた着実な準備と CS3(2023 開催)の白書による成果公表</p> <p>研究領域の多様化に対応した体制検討(ディビジョン、新領域研究グループ、部会等)</p> <p>IUPAC、FACS 等の国際連携を通じた国際的存在感の強化</p>
産官学連携	<ul style="list-style-type: none">化学フェスタの躍進各種事業による収益最大化ウェビナー事業の発展キャリア支援事業の充実	<p>収益事業としての CSJ 化学フェスタの持続的運営</p> <p>既存事業の収益最大化に向けた参加者増加策とコスト削減の検討</p> <p>ハイブリッド開催システムなどを活用した、ウェビナー事業の強化</p> <p>キャリア支援事業の強化・発展</p>
人材育成・多様化	<ul style="list-style-type: none">シームレスな会員制度の再設計多様性に基づく人材育成、教育普及と組織運営化学人材のキャリア形成充実の仕掛け作り個々の会員が普及広報・育成の担い手になるシステム構築	<p>各部門、支部と連携した中高生会員の増強</p> <p>教育普及事業を通じた人材育成、化学普及の継続</p> <p>多様なキャリア形成に対応した事業の実施</p> <p>本会および会員による実験教室やイベントへの化学普及グッズ提供を通じた化学人材育成のサポート</p>
組織活性化	<ul style="list-style-type: none">会員サービス強化財務体質強化の継続組織体制の改革事務局機能の強化	<p>DX 化の推進、アウトソーシングの活用による業務効率化および会員サービスの質向上</p> <p>さらなる財務体質の健全化(寄附事業・資産運用業務、会館賃貸事業、出版事業等)</p> <p>創立 150 周年(2028 年)に向けた各種事業の体制整備(準備委員会の設置等)</p> <p>事務局体制および規則類の整備、事務局人材の育成</p>

春季年会・CSJ化学フェスタ

本会では、春と秋に二大イベントを開催しています。

日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った

様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。

インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to face の情報交換」

「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的に開催しています。

春季年会

国内外から約 6,000 名の参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして、毎年 3 月下旬に 4 日間連続で開催されます。講演件数は約 4,000 件に上り、約 50 の会場で実施されます。最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができます。研究分野を超えて集い交流する場となっています。第 103 春季年会は 4 年ぶりの現地開催となり、講演会場の内外を問わず積極的な交流が見られました。また、一部の会場をオンラインとのハイブリッド開催とするなど新しい試みを取り入れました。引き続き年会改革の下、各方面で従来の運営から少しずつ変化を取り入れ、発表者、聴講者双方にとって魅力ある内容を目指しています。



2023年度開催実績

● 第 103 春季年会

参加者数：6,103 名

講演件数：3,997 件

会場：東京理科大学 野田キャンパス



CSJ 化学フェスタ

2011年の世界化学年に秋季事業の一環として「产学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年10月中旬～下旬に3日間連続で開催され約3,000名が参加します。参加者は产学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野などの最新の化学と技術を紹介する約200件のテーマ企画講演および約1,000件の学生ポスター発表を聴講できます。第13回を迎えた2023年は、東京・江戸川区のタワーホール船堀にて、交流会を含めたすべての企画をコロナ禍前とほぼ同様の内容で開催しました。今後も、产学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていく予定です。

2023年度開催実績

• 第13回CSJ化学フェスタ

参加者数：2,554名

講演件数：1,002件

会場：タワーホール船堀（東京都）



市民に開かれた講座

春季年会、CSJ 化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さんに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。

春季年会市民講座

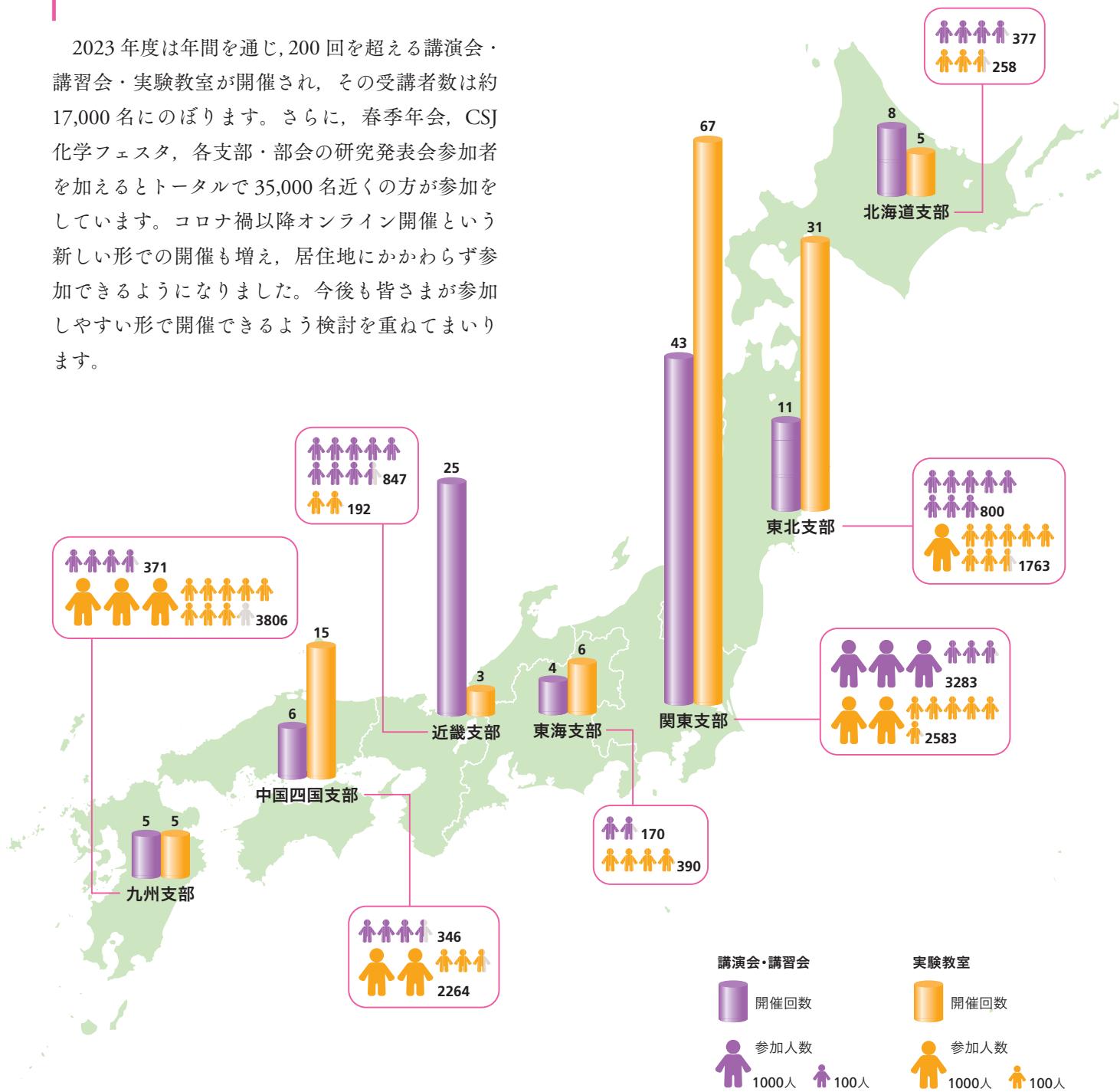
CSJ 化学フェスタ公開講座

講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

講演会・講習会・実験教室

2023年度は年間を通じ、200回を超える講演会・講習会・実験教室が開催され、その受講者数は約17,000名にのぼります。さらに、春季年会、CSJ化学フェスタ、各支部・部会の研究発表会参加者を加えるとトータルで35,000名近くの方が参加をしています。コロナ禍以降オンライン開催という新しい形での開催も増え、居住地にかかわらず参加できるようになりました。今後も皆さまが参加しやすい形で開催できるよう検討を重ねてまいります。



R&D懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的のひとつです。今年度はご好評いただいた見学会も実施しました。

2023年度開催実績

開催回数：9回

参加者数：419名

会場：オンライン開催（Zoomライブ配信）、現地開催



化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。本年は3講座を現地、2講座をオンラインで開催しました。4年ぶりの現地開催では、ランチミーティングや懇親会を通し、人的ネットワークを形成することができました。オンライン開催では海外からも受講いただき好評を得ました。今後も現地とオンライン双方の良さを活かした講座を開講していく予定です。

2023年度開催実績

開催回数：5回

参加者数：138名

会場：現地開催およびオンライン開催



化学安全スクーリング

化学実験を行う大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関する安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

2023年度開催実績

開催回数：1回

参加者数：37名

会場：東京大学 本郷キャンパス



化学を広める・ 未来の化学者を育てる

子供から大人まで多くの方に化学を身近に感じてもらいたい、
魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、様々な取り組みを実施しています。

実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

2023年度開催実績

開催件数：約 130 件
参加人数：約 11,300 名



夏休み子どもサイエンス 2023 ななせの火群まつり出張版（大分県）

化学の日（10月23日）

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1 mol の物質中に存在する粒子の数 = 6.02×10^{23} 個）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いの下、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日にちなんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



元素検定 2023 @ 大阪



島根大学 1 日体験入学



体験化学教室（栃木県）



小中学生のための化学実験講座
- 訪問実験 - (山形県)

化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子どもたちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ってほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援の下、寄付金で運営されています。



[左・右] 君も化学者！ in 農工大

2023年度開催実績

ニュースレター発行：3回

体験型イベント：3件

参加人数：約80名

メンバー：3,655名

化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てる目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約3,000名の中高生が化学の力を競い合います。また、本大会を含めて複数回の試験で選抜された日本代表生徒4名は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加します。2024年はサウジアラビアで開催される予定です。



[上] 表敬訪問（文部科学省）

[下・左] 表敬訪問（駐日スイス大使館）

[下・右] 国際化学オリンピックスイス大会実技試験

2023年度開催実績

● 化学グランプリ

[一次選考] 参加者数2,884名（マークシート式）

[二次選考] 参加者数81名（実験試験）

● 第55回国際化学オリンピックスイス大会

代表生徒4名参加

（金メダル2 銀メダル2 89カ国・地域・他から348名参加）

中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。ピックアップ記事・イベント情報は中高生会員専用のウェブサイトでご覧いただけます。

中高生会員特典



キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれがface to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考え方の下、キャリア支援事業を行っています。

企業現場見学会

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持つてもらうことを目的としています。参加した学生からは「実際に研究を行っている現場を見学することができ、企業で研究するということのイメージが湧いた」との感想をいただいています。また、開催企業からは「化学を志向する学生が参加者であるため、非常に積極的であった」との声を頂戴しています。



花王株式会社

2023年度開催実績

開催回数：6回

参加者数：86名

- 大阪有機化学工業株式会社 大阪事業所
- 花王株式会社
和歌山工場内・花王エコラボミュージアム
- AGC 株式会社 AGC横浜テクニカルセンター (YTC)
- 株式会社日本触媒 吹田地区研究所
- 三菱ケミカル株式会社
Science & Innovation Center
- 田岡化学工業株式会社 淀川工場・研究所



株式会社日本触媒



三菱ケミカル株式会社



AGC 株式会社

就職交流会

就職交流会は、大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交換を目的に毎年開催されています。参加者からは「いろいろな企業と交流が持て、学内での説明会につなげることができた」（大学関係者）、「様々な大学の就職担当の先生と交流し、学生の状況や組織の変化等を知ることができて非常に有意義な時間であった」（企業関係者）といった感想を頂戴しています。

座談会, 講演会, セミナー

化学系等専攻の学部生・大学院生を対象とした就職関連の事業です。「化学」に特化したイベントのため企業・学生双方にベストマッチすることが最大の特徴です。学生にとっては自身のキャリア形成を考える良い機会になっており「様々な企業の社員の方の話を聞いて、自分が将来企業で働くイメージがより具体的になった」というような感想を頂戴しています。

2023年度開催実績

開催回数：1回

参加者数：約60名(22大学, 16社)

会場：オンライン開催 (Zoom ライブ配信)

2023年度開催実績

● 大学生・大学院生向けの企業研究者とのオンライン座談会

開催回数：3回

参加者数：37名

会場：オンライン開催 (Zoom ライブ配信)

● キャリアデザイン研究講演会(近畿支部・オンライン開催)

化学系業界紹介イベント

企業7社, 学生約155名参加

本イベント

企業6社, 学生約47名参加

イブニングイベント

企業2社×7回, 学生延べ約118名参

ランチョンイベント

企業4社×4回, 学生延べ約73名参加

● キャリ探(コロイドおよび界面化学部会)

開催回数：1回

参加者数：79名

会場：信州大学工学部

● 化学系学生のための企業研究セミナー(関東支部)

参加企業：計26社

会場：オンライン開催 (Zoom ウェビナー・ライブ)

※一部アーカイブ公開あり



キャリ探(コロイドおよび界面化学部会)



化学系学生のための企業研究セミナー(関東支部)

英文論文誌

英文論文誌2誌を発行しています。2013年からは科研費「国際情報発信強化」の支援を得て、編集体制の強化・質の高い論文の掲載・レベルの高い著者の獲得・メールやSNSを活用した論文PRなど国際的な情報発信強化に取り組んでいます。

ジャーナル飛躍のための海外出版社との協業

2024年1月、Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) と Chemistry Letters (CL) は、オックスフォード大学出版局 (Oxford University Press; OUP) とジャーナル共同出版契約を締結し、出版業務を協調して行うことになりました。

OUPは、世界的に認知された出版社であり、学術研究分野の優れた研究成果と専門知識を擁することで知られています。BCSJとCLは、その経験とリソースを有効活用することで、より幅広い読者層に訴求し、掲載論文の影響力と認知度を国際的に向上させることを目指します。

また、この2誌が現在に至るまでに築き上げた高い信頼性、評価、影響力を維持しつつ、OUPとともにさらなる成長を目指します。同時にOUPとの新たな協力関係を通じ、オープンサイエンス推進に向けた貢献を一層高めてまいります。

- 出版プロセスの効率化と迅速化
- 論文の査読および編集の品質向上
- 國際的な読者層の拡大
- 先進的なオンラインプラットフォームとデジタルツールの提供
- ジャーナルの認知度向上
プロモーション強化
- 論文インパクト指標の拡充

The Chemical Society of Japan
Oxford University Press

Start Collaborative Publication

- **Easier Publication**
Speed up the process from submission to publication.
- **Expanding Visibility**
Acceleration of world-wide visibility of the published papers.
- **Accelerating OA**
We will increase the number of the Open Access (OA) papers for promoting an open science.

OXFORD ACADEMIC Journals Books

BULLETIN of the Chemical Society of Japan

Impact Factor 4.0
Editor-in-Chief Kenichiro Ariga
Deputy Editor-in-Chief Mikio Sugiura
Editorial Board

About the journal
The Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) is devoted to the publication of scientific research papers with the broadest significance to the chemistry community in general.
Find out more

OXFORD ACADEMIC Journals Books

CHEMISTRY LETTERS

Impact Factor 2.1
Editor-in-Chief Atsushi Ichijo
Editorial Board

About the journal
Chemistry Letters is a journal for the publication of high-quality Letters focusing on current topics of all aspects of chemistry.
Find out more

※論文インパクト指標の拡充とは

これまで、公開した論文のインパクトとしては、Web of Science (Clarivate Analytics 社 提供) の被引用回数や閲覧回数しかありませんでしたが、OUPとの協業を機にオルトメトリクス (altmetrics) の指標が論文ごとに容易に確認できるようになりました。オルトメトリクスは、個々の論文などについてウェブ上のソーシャルメディア



やニュースサイトの反応を基に影響度を測る指標で「即時性」「社会性」が特徴です。

世界から見えるジャーナルを目指して

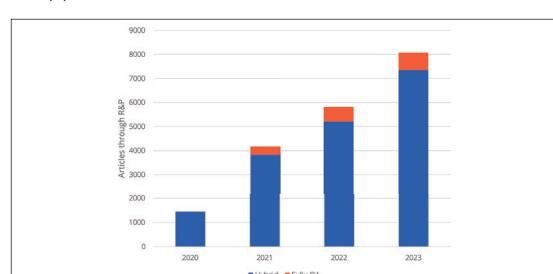
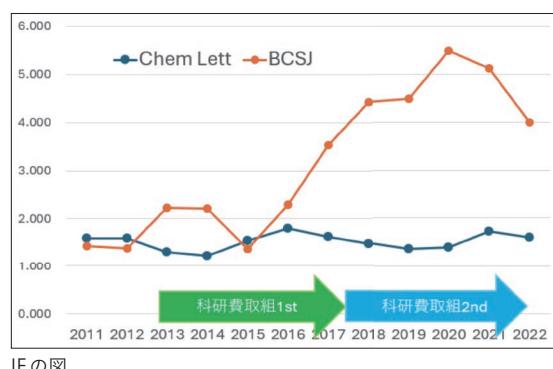
Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (1926年創刊、現在97巻、年間200論文ほど掲載)とChemistry Letters (CL) (1972年創刊、現在53巻、年間300論文ほど掲載)を電子版で発行しています。世界から見えるジャーナルを目指して、メールでの論文PR、国際会議での広告掲載やフライヤーの配布、ジャーナル名を冠した賞の授与を行っています。2023年度は、BCSJではControlled Chemical Construction (C3) for Advanced Functionsをテーマに、澤本光男先生をGuest Editorに迎え、有機材料、無機材料、超分子材料など多岐に及ぶ最先端の論文を45報掲載しました。CLでも、著名な先生や新進気鋭の若手のReview論文を掲載しました。

BCSJは高いImpact Factor(IF)を維持

2023年に発表となったIFはBCSJが4.0で、依然として高い数値を保つ結果となりました。CLは1.6でほぼ横ばいとなりました。

世界的なオープンアクセス化の潮流への対応

ジャーナル購読料の高騰により購読を継続できない機関が増え、これにより引き起こされる情報格差が問題となっています。この問題を解決するため、オープンアクセス化が推進されています。その一例が「転換契約 (Transformative Agreement: TA)」です。従来、論文をオープンアクセスで公開するには、著者自身が高額の料金 (Article Processing Charge: APC) を払う必要がありました。しかしTAは、このAPCと購読料を一体化して機関が支払い、その機関に属する研究者が購読対象となっているジャーナルで論文掲載をする場合には、無料でオープンアクセス公開ができるという契約です。OUPはTAへの移行を推進しているため、OUPとの出版協業により化学会のジャーナル2誌 (BCSJとCL) もオープンアクセス化への潮流に乗り遅れずに対応を進めることができます。



OUPの転換契約を通じてオープンアクセス公開された論文数の推移

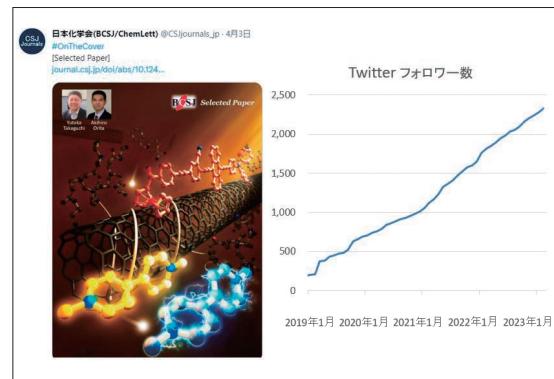


OUPの転換契約成立の世界マップ

メール配信やX（旧Twitter）を利用して 掲載論文をPR

個人会員（ディビジョン登録者）を対象にメールにて掲載論文情報の配信をしています。各ディビジョンに関連する内容の論文で、フリーアクセス論文を中心にお知らせしています。Xでは、掲載論文情報や国際会議等でのジャーナルPRについて配信しています。フォロワー数は2,800名を越えました。オリジナル企画「ジェンセン・レイダーの化学論文を書くための英語講座」の配信も好評で、新たな企画の準備も進めています。

ぜひフォローをお願いいたします（Xアカウント – CSJjournals_jp）。



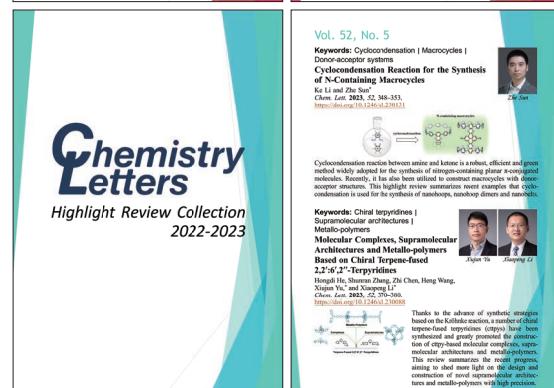
X のフォロワー数の推移



X での英語講座企画

Account/Review Collection (BCSJ) と Highlight Review Collection (CL) の配布

質の高いReview論文を多数掲載しており、それらの論文をより多くの研究者に認知してもらうために、タイトル、著者名、キーワード、アブストラクト、責任著者写真をまとめた小冊子「Account/Review Collection (BCSJ)」と「Highlight Review Collection (CL)」を作成して広く配布を行っています。



出版

1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。
現在は機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

化学と工業誌：最新情報を会員に

毎月1日に発行し、会員に配布しています。毎号、特集テーマとして化学や化学工業分野の最新情報を取り上げ、わかりやすく解説した記事を掲載しています。このほかに、注目トピックスのインタビューを扱った記事「OVERVIEW」、会員の紹介欄「CCIサロン」などを掲載しています。2023年度は特集欄の新連載企画「あれから10年余り 進歩賞受賞者のいま」がスタートしました。「進歩賞をご受賞なさった方々」にフィーチャーし、ご自身の研究や研究室のご紹介など、受賞から現在までのストーリーを自由にご紹介いただきました。



化学と教育誌：教育現場に役立つ情報を

毎月20日に発行し、教育会員や教育学生会員等に配布しています。毎号、教育現場で役立つ化学実験の紹介や最新情報をわかりやすく解説した記事や会員からの投稿記事も審査の上掲載しています。2023年度は、最新のトピックスとして「スマートフォンを活用した化学実験の試み」などの特集を実施しました。



様々な刊行物

日本化学会では、「化学便覧」「実験化学講座」「カレントレビュー」「化学の要点」など、数多くの書籍を編集・刊行しています。2023年度は、カレントレビュー46～48巻、化学の要点シリーズ42～48巻を発行しました。



2023年度出版物

- 【化学の要点シリーズ48】ペロブスカイト太陽電池
- 【CSJカレントレビュー48】ペロブスカイト太陽電池の学理と技術 カーボンニュートラルを担う国産グリーンテクノロジー

など



社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。
本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

化学遺産関係

委員会への寄付をもとに著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産の調査、認定、発表をしています。2023年は3件が化学遺産に新規認定されました。また、毎年市民公開講座にて新規認定遺産の解説講演を開催しています。

2023年度認定化学遺産

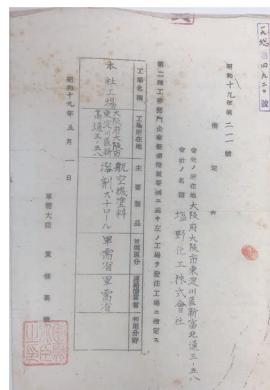
- ・第065号 国産ペニシリン開発および製造関係資料
- ・第066号 日本に現存する最古のアミノ酸分析計
- ・第067号 太平洋戦争中に日本でポリスチレンを工業化していたことを示す資料

市民公開講座

開催回数：1回
参加者数：216名
会場：オンライン開催



835形日立高速アミノ酸分析計（株式会社日立ハイテクサイエンス那珂事業所所蔵）



[左] 軍需大臣東條英機名の発注工場指定書（塩野香料株式会社 所蔵）
[右] 碧素アンプル（10cc）（公益財団法人日本感染症医薬品協会 所蔵）

缶バッジデザインコンテスト

「化学の日」を広める取り組みのひとつとして、2015年より毎年「化学の日缶バッジ」のデザインを公募しています。最優秀賞は缶バッジとして各種イベントにて配布されます。入賞作品は日本化学会ウェブサイトをご覧ください。

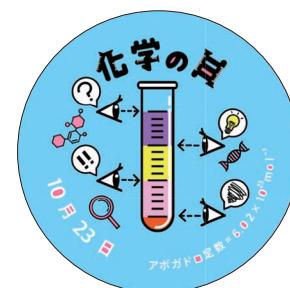
2023年度応募実績(総数:994点)

小学生の部: 21点
中学生の部: 596点
高校生の部: 216点
一般の部: 161点

2023年缶バッジデザインコンテスト結果



最優秀賞（バッジ作品）



優秀賞

吉野彰研究助成

リチウムイオン電池開発における革新的な功績により 2013 年度に The Global Energy Prize (2002 年にロシアで創設されたエネルギー分野のノーベル賞といわれる最も権威ある賞) を受賞された吉野 彰 氏(旭化成株式会社、日本化学会名誉会員)が、その報奨金をエネルギー、環境、資源分野の研究活動の活性化のために有効に使いたいとの思いから本会に寄付され、その基金を基に 2014 年度に「吉野彰研究助成事業」が創設されました。募集テーマについては毎年吉野先生自ら設定されております。

2023年度助成対象者

氏名：井口翔之（京都大学大学院工学研究科分子工学専攻 特定講師）

研究題目：アンモニア態窒素と太陽光を利用した CO₂ の資源化

助成額：200万円



長倉三郎賞

2020 年 4 月に逝去された日本化学会元会長／名誉会員・長倉三郎先生のご遺族より、化学の発展と後進の育成のためにと多額の寄付をいただきました。これに基づき、本会は 2021 年度に長倉三郎賞を新設いたしました。この賞は、研究・開発における業績の独創性と独自性を特に重視して未来の化学を担う将来性のある受賞者に授与される点等、他の日本化学会各賞とは一線を画した新しい賞であり、次世代の優れた化学者を育成し、化学と日本化学会のさらなる発展に大きく寄与すると期待しております。

2023年度受賞者

● 第3回長倉三郎賞

氏名：南後恵理子（東北大学多元物質科学研究所 教授）

受賞題目：タンパク質動的解析による反応機構解明

正賞：表彰楯

副賞：1,000万円（用途や期間等の制限なし）



グローバリゼーション

化学の世界で国際的なリーダーシップを発揮し活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。また、持続性社会の確立、SDGsの達成、地球環境の保全などの重要な課題に対し、基幹科学としての「化学」の後ろ盾を担う本会が「solution provider」として政策への提言やCS3 (Chemical Sciences and Society Summit) などのプラットフォームを通じて世界の化学会と協調して情報発信を行っています。

国際的連携・協調、異文化交流

化学の国連ともいべき IUPAC^{*1} や、アジア化学連盟；FACS^{*2} との国際協調、また ACS^{*3} と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize、RSC^{*4} との二国間協定に基づく PCCP Prize 授賞選考、さらには CSLT^{*5} や ICS^{*6} とも協力協定を締結し共同して国際シンポジウムを開催するなどの活動を行っています。また様々な国際会議に代表者を派遣し化学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。

*1 国際純正・応用化学連合

*2 Federation of Asian Chemical Societies

*3 アメリカ化学会

*4 英国王立化学会

*5 Chemical Society Located in Taipei

*6 Israel Chemical Society イスラエル化学会



[上] 第9回 CS3

[下] イスラエル化学会との二国間協力に関する覚書（MoU）を締結

Pacifichem(環太平洋国際化学会議)の開催

5年に1度、世界化学界の一大イベントである Pacifichem をハワイ・ホノルルで開催しています。次回 2025 年の第9回はカナダがホスト国になります。日米加の設立 3 学会に加え、中韓豪および NZ の 7 化学会が共同主催し、前回 2021 年には世界 71 カ国・地域から約 8,700 名、会期中平均視聴数 8,100 名超（オンライン開催のため）の参加者を迎える、10,000 件近い講演が行われました。次回 2025 年はテーマを Building Communities to Address Global Challenges とし 12 月 15 ~ 20 日の 6 日間ホノルルで開催される予定です。



表彰事業

化学の基礎または応用に関する研究業績、並びに我が国の化学工業の技術開発、
化学教育上の業績、本会活動への功績について、毎年各賞の選考委員会において厳正な選考が行われ、
理事会の審議を経て決定、受賞者の表彰を行っています。

2023年度各賞受賞者（敬称略）

第76回日本化学会賞

阿波賀邦夫（名大院理）

石谷 治（東工大理、広島大院先進理工）

工藤昭彦（東理大理）

深瀬浩一（阪大院理）

山子 茂（京大化研）

吉澤一成（九大先導研）

第41回学術賞

猪熊泰英（北大院工）

今岡享稔（東工大化生研）

生越友樹（京大院工）

長田 実（名大未来研）

清水研一（北大触媒研）

永木愛一郎（北大院理）

中林孝和（東北大院薬）

南後恵理子（東北大多元研）

山内悠輔（名大院工）

山下 誠（名大院工）

第73回進歩賞

岡田健司（大公大院工）

川脇徳久（東理大院理）

北尾岳史（東大院工）

栗山翔吾（東大院工）

信田尚毅（横国大院工）

長尾一哲（京大化研）

永島佑貴（東工大物質理工）

中室貴幸（東大総プロ）

西川 剛（京大院工）

安川知宏（ESPCI Paris）

第12回女性化学者奨励賞

新津 藍（理研）

村田 慧（東大生研）

第72回化学技術賞

山田雄大

湯浅皓卓

住岡沙羅

高田慎吾

野村真人

（以上、花王（株））

松村和行

加藤圭悟

龍田佳子

金森大典

桂田悠基

（以上、東レ（株））

秋積宏伸

森崎 宏

松尾拓馬

（以上、（株）トクヤマデンタル）

岡本勝彦

植草貴行

（以上、三井化学（株））

第29回技術進歩賞

磯貝和生

河井翔太

（以上、東レ（株））

第48回化学教育賞

荻野賢司（農工大院工）

宮村一夫（東理大名誉）

第41回化学教育有功賞

大橋弘範（福島大共生システム理工）

上條利夫（鶴岡高専）

鮫島朋美（学芸大附国際中教）

重原淳孝（農工大名誉）

第42回化学技術有功賞

該当者なし

第19回功労賞

木原伸浩（神奈川大理）

永澤 明（埼玉大名誉）

前山勝也（山形大院有機材料システム）

山口 肇（名大院工）

第3回長倉三郎賞

南後恵理子（東北大多元研）

企業・団体からのご支援

100口以上

AsahiKASEI

KAO

DIC
Color & Comfort

DIC 株式会社

'TORAY'

FUJIFILM



Mitsui Chemicals

MITSUBISHI
CHEMICAL
GROUP

三菱ケミカル株式会社

50口以上

AGC
Your Dreams, Our Challenge

Kaneka

kuraray
Possible starts here

住友化学

DAICEL
株式会社ダイセル

TEIJIN

東ソー株式会社
TOSOH

MARUZEN
PUBLISHING

RESONAC

10～49口

■ 化学

artience(株)

(株)ADEKA

荒川化学工業(株)

(株)大阪ソーダ

関西ペイント(株)

クミアイ化学工業(株)

(株)クレハ

興和(株)

三洋化成工業(株)

JSR(株)

JNC(株)

塩野香料(株)

信越化学工業(株)

住友精化(株)

住友ベークライト(株)

積水化学工業(株)

セントラル硝子(株)

高砂香料工業(株)

デンカ(株)

東亜合成(株)

(株)トクヤマ

日亜化学工業(株)

日油(株)

日産化学(株)

日鉄ケミカル＆マテリアル(株)

日本化学工業(株)

日本化薬(株)

(株)日本触媒

日本ゼオン(株)

日本曹達(株)

三菱ガス化学(株)

UBE(株)

ライオン(株)

医薬品

アステラス製薬(株)

小野薬品工業(株)

協和キリン(株)

塩野義製薬(株)

住友ファーマ(株)

第一三共(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

■ゴム製品

(株)ブリヂストン

横浜ゴム(株)

■ 食料品

味の素(株)

サントリーホールディングス(株)

■石油・石炭製品

出光興産(株)

ENEOS(株)

■機械

ダイキン工業(株)

■建設業

日揮ホールディングス(株)

■公的研究機関

(国研)理化学研究所

■精密機器

(株)島津製作所

■電気機器

コニカミノルタ(株)

パナソニックホールディングス(株)

(株)村田製作所

■非鉄金属

住友電気工業(株)

口数、業種別に 50 音順・敬称略（2024 年 4 月 1 日現在）

ほかにも幅広い業種（電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等）を含む多くの企業・団体にご支援いただいている。

詳細は下記 URL をご参照ください。（403 社）

<https://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

化学会概要

沿革

1878 年	化学会創立、翌年、東京化学会と改称
1898 年	工業化学会創立
1921 年	東京化学会が日本化学会と改称
1941 年	社団法人に移行
1948 年	日本化学会と工業化学会が合併
1978 年	創立 100 周年記念
1991 年	化学会館竣工
2003 年	創立 125 周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
2011 年	公益社団法人に移行
2018 年	創立 140 周年
2020 年	化学会館改修

会員 (2024年2月末現在)

約 2.3 万人の会員を擁し、国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は 404 法人。

会員種

個人正会員	15,622
学生会員	4,860
中高生会員	112
教育会員	1,399
名誉会員	61
法人正会員	404
公共会員	271
合計	22,729

目的・事業

(目的)

本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第 3 条）

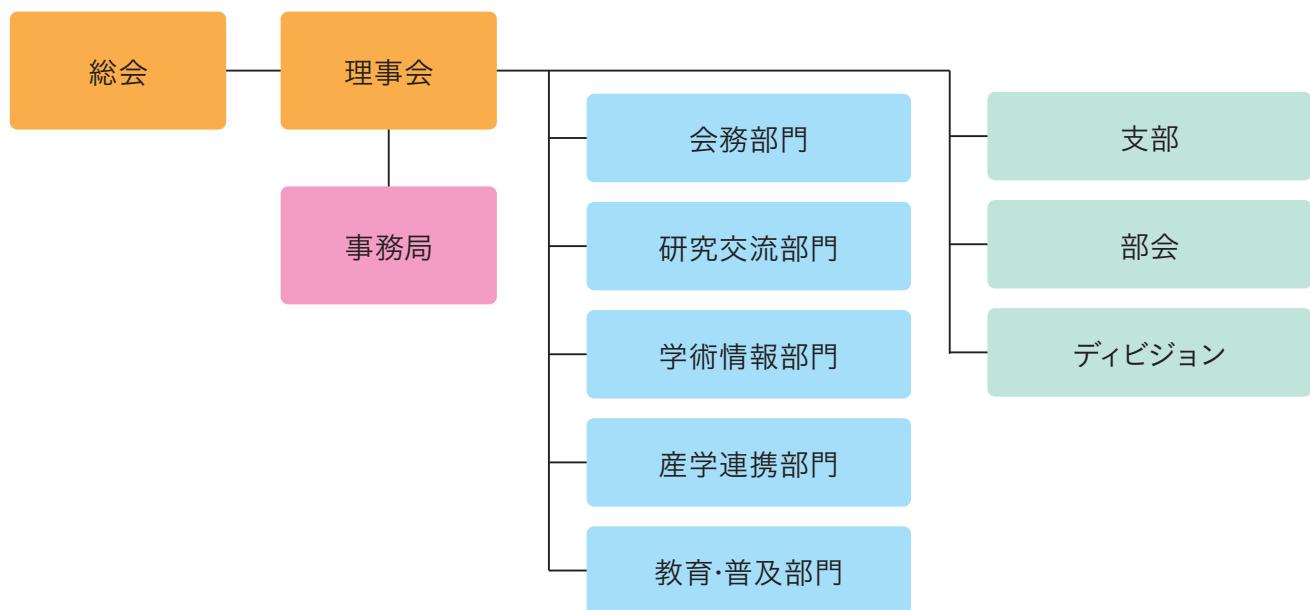
(事業)

本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
- (2) 会誌並びに学術図書の刊行
- (3) 内外の関連学協会との連携、協力
- (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (5) 産学、産業交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
- (6) 化学知識の普及に資する事業
- (7) 化学教育の振興など人材の育成に資する事業
- (8) 化学の振興に関する政策提言
- (9) 科学及び技術に関する調査、研究
- (10) 科学及び技術に関する研究の助成
- (11) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。（定款第 4 条）

組織図



役員 (2024年5月24日現在)

会長	丸岡啓二（京都大学）	理事	熊本卓哉（広島大学）
筆頭副会長	鈴木孝治（JSR(株)JKiC）	理事	小島隆彦（筑波大学）
常務理事	澤本光男（中部大学）	理事	小西克明（北海道大学）
副会長	近藤輝幸（京都大学）	理事	坂井隆也（花王(株)）
副会長	酒井浩志（㈱レゾナック）	理事	櫻井英博（大阪大学）
副会長	佐藤一彦（(国研)産業技術総合研究所）	理事	島ノ江憲剛（九州大学）
副会長	竹中 克（旭化成(株)）	理事	島本啓子 ((公財)サントリー生命科学財団)
副会長	馬場嘉信（(国研)量子科学技術研究開発機構）	理事	杉本直己（甲南大学）
		理事	鈴木隆之（東京電機大学）
		理事	関根千津（㈱住化技術情報センター）
		理事	叶 深（東北大大学）
理事	五十嵐達也（富士フィルム HD(株)）		
理事	石井洋一（中央大学）	監事	石谷 治（広島大学）
理事	石原一彰（名古屋大学）	監事	五十嵐仁一（元 ENEOS 総研(株)）
理事	海老原昌弘（岐阜大学）	監事	加藤昌子（関西学院大学）
理事	大内 誠（京都大学）	監事	富重圭一（東北大大学）
理事	大塚英幸（東京工業大学）		
理事	岡本晃充（東京大学）		
理事	北川尚美（東北大大学）		

計 31 名

会計報告(2023年度)

貸借対照表(要約版)

2024年2月29日現在

科目	(単位:千円)
〈資産の部〉	
流動資産	286, 321
固定資産	2, 316, 265
基本財産	599, 267
特定資産(負債対応)	189, 471
特定資産(指定)	757, 415
特定資産(一般)	299, 017
その他固定資産	471, 095
資産合計	2, 602, 586
〈負債の部〉	
流動負債	227, 250
固定負債	225, 375
負債合計	452, 625
〈正味財産の部〉	
指定正味財産	757, 416
一般正味財産	1, 392, 545
正味財産合計	2, 149, 961
　　負債及び正味財産合計	2, 602, 586

正味財産増減計算書(要約版)

2023年3月1日～2024年2月29日

科目	(単位:千円)
〈収益〉	
受取会費等	246, 694
イベント関連収益	146, 003
購読・印税等収益	141, 735
賃貸関連収益	119, 729
補助金・寄付金等収益	110, 887
広告掲載収益	52, 201
運用等収益他	34, 465
収益計(経常収益+経常外収益)	851, 714
〈費用〉	
事業費	785, 045
管理費	60, 517
費用計(経常費用+経常外費用)	845, 562
投資有価証券評価損益	
当期増減額	22, 055
法人税等	
当期一般正味財産増減額	70
	21, 984

受取補助金内訳

交付者	(単位:千円)
日本学術振興会(国際情報発信強化)	45, 400
徳山科学技術振興財団他	10, 005
計	55, 405

受取寄付金内訳

	(単位:千円)
化学振興事業	1, 321
化学だいすきクラブ事業	4, 702
化学遺産事業	1, 276
計	7, 299

公益社団法人日本化学会 ご支援のお願い

(公社)日本化学会では化学の振興、普及を目的とした活動に対し、皆さんにご寄付をお願いしております。

化学振興活動

各種イベント（春季年会、CSJ化学フェスタ、市民公開講座等）、化学グランプリ・国際化学オリンピックへの代表生徒派遣、化学会館の修繕・補修、支部・部会活動等、本会事業全体に活用させていただきます。



国際化学オリンピック表彰式



春季年会学生ポスター発表



高校生のための化学講座

化学だいすきクラブ事業

小・中学生対象事業を専門にした支援です。子どもたちへ冊子の無料配布や実験教室を開催するために活用させていただきます。



化学遺産事業

化学・化学技術に関する歴史的に貴重な史料を守り、また化学関係の諸先達の偉業を伝えるなど化学の業績を後世に伝えていくための活動に活用させていただきます。



宇田川榕菴自ら描いたと推定される
気体実験用の器具類（認定化学遺産 第001号）



日本最初の化学講義録 朋百舎密書(ポンペイ化学書)
(認定化学遺産 第007号)



(左)紫根と紫根染めとシコニン標本／(右)ウニとその
色素スピノクロムの標本（認定化学遺産 第019号）

本会への寄付金は税制上の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。
詳しくは日本化学会ウェブページをご覧ください。

寄付の詳細は [日本化学会](#) で検索ください。



公益社団法人
日本化学会

ノーベル賞受賞会員



© The Nobel Foundation.

2019年
受賞

化学賞

吉野 彰

受賞理由：リチウムイオン電池の開発
1999年 化学技術賞受賞

2015年
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由：線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1999年 日本化学会賞受賞

2010年
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング
1989年 日本化学会賞受賞

2008年
受賞

化学賞

下村 健

受賞理由：緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由：生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年
受賞

化学賞

野依良治（日本化学会元会長）

受賞理由：不斉触媒による水素化反応の研究
1985年 日本化学会賞受賞

2000年
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由：導電性高分子の発見と開発

1981年
受賞

化学賞

福井謙一（日本化学会元会長）

受賞理由：化学反応過程の理論的研究



〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
TEL:03-3292-6161 FAX:03-3292-6318
<https://www.chemistry.or.jp/>

デザイン:株式会社マツダオフィス
印刷:三永印刷株式会社

2024.06.

